

大人用



伝道地便り

2024年第2期 ユーロ・アジア支部

- | | |
|--------------------|---------|
| 第1話 「弦の切れたギター」 | ウズベキスタン |
| 第2話 「神様は本当におられる」 | ウズベキスタン |
| 第3話 「バス停の奇跡」 | ジョージア |
| 第4話 「歌を歌う少年」 | ベラルーシ |
| 第5話 「奇跡の学校」 | ロシア |
| 第6話 「声に従って引っ越した夫婦」 | ロシア |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの使い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 弦の切れたギター

ウズベキスタン



アルトゥル

ウズベキスタンに住むアルトゥルは、5歳のときにバプテスマを受けました。しかし、彼は神様については何も知りませんでした。神様について話してくれる人も、バプテスマを受けた後に教会に連れて行ってくれる人もいなかったからです。

神様について考えたことは一度もありませんでしたが、14歳になると十字架をデザインしたイヤリングをするようになりました。カッコいいと思ったからです。

その頃、ギターを習いたくなりました。お母さんに言うと、すぐに楽器屋さん連れて行ってくれました。お母さんは、何の目的もなく毎日を過ごしているアルトゥルの生きがいになればと思ったのです。彼は茶色いエレキギターを選びました。

アルトゥルはギターの弾き方を教える YouTube 動画を見つけ、練習を始めました。弦を押さえると指が痛くなりましたが、数日すると痛みは引いてきました。しかし、YouTube の先生のように演奏できませんでした。

ギターを買ってから2週間した頃、弦が1本づつと切れてしまいました。張り替え方がわからなか

ったのでネットで探すと、ギター教室もしているアルチョムという人の電話番号が見つかりました。アルトゥルは早速電話をかけて、「弦を替えたいのですが、お願いできますか」と聞きました。

アルチョムが自宅の住所を教えてくださいましたが、アルトゥルはその住所を聞いたことがある気がしました。彼は、母親が以前、その住所に住んでいるパシャという人のところで働いていたことを思い出しました。パシャとアルチョムは一緒に家具を作っていて、パシャは既に亡くなっていました。「ひょっとしてパシャさんの息子さんですか？」と聞くと、アルチョムは「はい、そうです」と答えました。

翌日、アルチョムはギターの弦を張り替えてくれました。その後で彼はアルトゥルに、「弾き方がわかりますか」と尋ねました。アルトゥルが YouTube で習ったことを見せようとする、アルチョムは「ちょっと待って！ コードを反対向きに押さえているよ」と言いました。なぜ YouTube の先生のように弾けないのかがわかりました。弾き方が間違っていたのです。

アルチョムはギター教室に招いてくれました。レッスン初日、彼はアルトゥルの十字架のイヤリングに目を留め、「君はクリスチャンなの？」と聞いてきました。アルトゥルは、クリスチャンではないと答えました。

2度目のレッスンのとき、アルチョムは、次はゼブンスデー・アドベンチスト教会でレッスンをしようと言いました。教会はアルトゥルの家の近くだったので、アルトゥルは行きますと答えました。

ギターの弾き方を習ううちに、アルトゥルは次第にレッスン以外でもアルチョムと会うようになりました。アルチョムが、自分と同じ文化の人たちに福音を伝えるグローバル・ミッション・パイオニアだということも知りました。他のアドベンチストの人たちとハイキングにも行きました。みんなはハイキングの休憩時間に歌を歌い、アルチョムはギターで

伴奏をしました。

その夏、アルトゥルは別の町で開かれた青年の修養会に行きました。説教者が2人ずつ組になって祈るように言ったとき、彼はどうしようかと思いました。祈ろうとして近づいてきた人に「僕は無神論者です」と言うと、その人は行ってしまいました。

次に近づいてきた人にも、神様を信じていないと言いました。そして、「今まで一度も祈ったことがありません」と付け加えました。すると、その人は行ってしまわずに、「では今日それを変えましょう」と言うとアルトゥルに祈り方を教えてくれました。その夜、アルトゥルは昼間の出来事について長いこと考えました。

安息日、修養会でひとりの青年がバプテスマを受けるのを見てアルトゥルは驚きました。「僕は5歳でバプテスマを受けたのに、アドベンチストはどうして大人になってバプテスマを受けるのですか？」そして、アドベンチストは、聖書の教えから、聖書を学び神様と交わす約束の内容を理解できる年齢になってから、バプテスマを受けることを教えてもらいました。

次の安息日、彼は初めて、礼拝をするために近くのアドベンチストの教会に行きました。その日の午後、彼は教会員たちと、貧しい子どもたちに学用品を届けに行く活動に参加しました。今までにない喜びが心を満たすのを感じました。そして、「周りの人を助けられないなら、生きている意味って何だろう」と考えました。

それが彼の人生のターニングポイントになりました。彼はもう、目的のない人生を送ろうとは思いませんでした。周りの人を助け、神を知ろうと決心しました。

アルトゥルが教会に定期的に行くようになって8か月が経ちました。彼は、聖書を学び、バプテスマを受けてイエス様に心をおささげしたいと思っています。

彼はギターの弦が切れて良かったと思っています。なぜなら、弦が切れたおかげで神様に導かれたからです。

今期の13回献金の一部は、ウズベキスタンに初

めてのセブンスデー・アドベンチストの小学校を建てるために使われます。

〈お話のヒント〉

- ウズベキスタンの場所を地図で示してください。それから首都のタシケントを示してください。今期の13回献金でこの地にセブンスデー・アドベンチストの小学校が建てられます。
- アルトゥルについての短い動画を見てください。
bit.ly/Artur-ESD
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。
bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/esd-2024
- グローバル・ミッション・パイオニアについてもっと知りましょう。
bit.ly/Gmpioneers
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）、「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ウズベキスタンは世界に2つある二重内陸国（他の内陸国に完全に囲まれた内陸国）のうちの1つで、もう1つはリヒテンシュタインです。
- ウズベキスタンは毎年80トンの金を採掘しています。
- ウズベキスタンでは穀物の栽培が盛んで、ウズベキスタン料理ではパンも麺類もよく食べられています。
- 韓国の紙幣にはウズベキスタン綿が使われています。

2. 神様は本当におられる

ウズベキスタン



ソニヤ

ソニヤが高校を卒業したとき、何よりも願っていたことは、名門大学で医学を学ぶことでした。しかし、大学に入学するには、多額の賄賂(わいろ)を支払う必要がありました。

現在は、ソニヤの祖国であるウズベキスタンの大学の入学に、賄賂は必要ありません。けれどもソニヤが受験生の頃は違いました。ソニヤはお父さんに、大学で医学を学びたいと伝えました。するとお父さんはすぐさま「賄賂は渡さないからね」と宣言しましたが、ソニヤは願書を書いて、物事が良い方向に働くのを願いました。

卒業が近づいた頃、彼女は自分の夢を親戚や友人、先生に打ち明けました。彼らは皆口をそろえて「賄賂のお金は集まったの?」と聞きました。

ソニヤは心配になってきました。お父さんの気持ちが変わらないのは分かっていました。そもそも賄賂となるお金がありませんでしたし、お父さんは誰かに借りようともしませんでした。お父さんがしてくれたのは、彼女が医学を学べるようにとお祈りす

ることだけでした。学校の先生をしているお母さんもお祈りしていました。

ソニヤはどう考えたらよいのかわかりませんでした。彼女は小さいころから両親と一緒にセブンスデー・アドベンチスト教会で礼拝していましたが、神様が本当にいらっしゃるという確信を持っていませんでした。お祈りして待っているだけで十分なのでしょうか?

お母さんは「あなたは大学入試の準備をしなさい。私たちはお祈りを続けるから」と言いました。ソニヤはびっくりしました。お母さんは、お祈りは彼女の側の努力と結びつかなくてはならないと言っているようでした。彼女は勉強を始めましたが、入試の日程がはっきりしませんでした。彼女が願書を提出したときも試験日がまだ決まっておらず、入試係に「決まったらお電話します」と言われました。

ソニヤは高校を卒業して、受験勉強を続けました。1か月が過ぎました。2か月が過ぎました。ソニヤは勉強し、両親は祈りました。大学からの電話は来ませんでした。ついに、夏が終わろうとする頃に、ソニヤは大学に電話をして試験日を尋ねました。すると「こちらにいらしてください。入試についてお話しします」と言われました。

ソニヤはお母さんと一緒に、朝 10 時に大学に着きました。学校の門で警備員が 2 人を呼び止めました。「入試は全部終わっています」と彼は言いました。ソニヤは驚き、憤慨しました。願書を期日通りに提出していたのに、誰も約束通りに日程を教えてくれなかったのです。入試のためにこの夏中準備をしてきたのに、それがまるまる無駄になったように感じました。

お母さんはソニヤの気持ちを察して、「入試結果はもう発表されているのですか?」と尋ねました。すると警備員は「はい。あそこに合格者のリストがありますよ」と言いました。お母さんは見に行きまし

た。ソニヤも後ろをついていきました。リストを見ると、そこに自分の名前があることに気づきました。

「見て！ 私、合格している！」

たくさんの受験生の中で、彼女は賄賂なしで、そればかりか入試すら受けることなく合格したのです。神様に対する疑いの心はすぐに消えました。大学が始まる前に、彼女はバプテスマを受けました。

「この経験から、神様は本当におられることがわかりました」と彼女は言っています。しかし、話はこれで終わりません。授業が始まると、同級生たちがソニヤに、大学に入るのに追加でいくら払ったのか聞いてきました。「全然払ってないわ。それに入試自体受けなくて良かったの」同級生はびっくりして尋ねました。「それでどうやってここの学生になれたの？」「コネがあるのよ」と彼女は答えました。

その後、学生たちがお互いをよく知るようになると、彼らはソニヤの「コネ」というのは神様との繋がりのことだと理解しました。彼女の信仰についてもっと知りたいと思う人たちが出てきて、彼女は聖書研究のグループを作りました。3人の同級生がバプテスマを受けました。

現在、ソニヤは毎日、自分の信仰を分かち合う機会を求めています。「神様は本当におられるのです」と彼女は言っています。

今期の13回献金の一部は、ウズベキスタンで初めてのセブンスデー・アドベンチストの小学校を首都タシケントに建てるために使われます。6月29日の献金日をお覚えください。

〈お話のヒント〉

- ウズベキスタンの場所を地図で示してください。それから首都のタシケントを示してください。今期の13回献金でこの地にセブンスデー・アドベンチストの小学校が建てられます。
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/esd-2024
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。
 - 「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
 - 「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
 - 「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ウズベキスタンの国旗は青、白、緑の3色で、その間に細い赤の帯が入っています。上部の白い三日月は独立共和国の誕生を象徴し、12個の白い星は1年の月をあらわしています。

3. バス停の奇跡

ネパール



ショウギークとテイ

旧ソ連のジョージアに住むショウギークは、4か国語を話すことができました。しかし、そのどの言語でも、読むことは好きではありませんでした。読書を楽しいと思ったことは一度もありませんでした。そんなある日、彼女はバス停でテイと出会いました。

テイが来たときショウギークはバスを待っているところでした。テイはジョージアで自分と同じ文化を持つ人々に福音を伝えるグローバル・ミッション・パイオニアでした。「バスはいつ着くのでしょうかね」とショウギークは言いました。テイは運転手と知り合いました。「あと数分で着くでしょう。運転手に電話したら、近くまで来ていると言っていました」と答えました。

2人の女性たちはおしゃべりを始めました。すると、2人共そこから少し離れた同じ町に住んでいることがわかりました。そしてテイがショウギークのお母さん、お兄さん、姪と甥を知っているということもわかりました。テイは彼らに、コロナのロック

ダウンのときに食べ物を差し入れしていたのでした。

2人はバスに乗ってからも楽しくおしゃべりし、連絡先を交換しました。それから数週間、携帯電話でメールを送り合いました。ショウギークの誕生日に、テイは自分の庭で咲いたバラの花束をサプライズで贈りました。ショウギークは大喜びでした。

それ以降、彼女たちはお互いの家を訪問しあうようになりました。ショウギークはテイがセブンスデー・アドベンチストだということを知り、そのことについてもっと知りたいと思いました。テイは、ショウギークが4か国語を話すことができるのに読書は好きではないということを知りました。15年前に高校を卒業して以来、一度も本を開いたことがないとのことでした。「聖書を開かない彼女に、どうやって神様のことを伝えたらよいのかしら」とテイは思いました。

テイはそのことをよく考えて、トビリシにあるセブンスデー・アドベンチスト教会の礼拝に誘ってみることにしました。トビリシはジョージアの首都で、バスで少し行ったところにあります。彼女は、午前中の礼拝に出席して、午後には聖書研究の授け方についてのセミナーに参加しようと思っていました。ショウギークは午前中の礼拝にだけ誘いました。読むのが好きではないので、聖書研究のセミナーには興味がないだろうと考えたからです。

けれどもトビリシへの招待に大喜びしたショウギークは、一日中テイと一緒に過ごすと言いました。せっかくそう言っているのに、テイも同意しました。ショウギークは安息日礼拝に喜んで参加しました。そして、神様と共に歩みたい人のためにお祈りしますと説教者が言ったときには、礼拝堂の前方に進み出ました。

午後のセミナーの時間、礼拝堂は聖書研究の授け方を学ぼうとする教会員たちでいっぱいでした。牧師の1人がショウギークを呼んで、「あなたはバプテ

スマを受けていますか？」と聞きました。「受けていません」と答えると、彼は「では手伝ってください」と言って彼女を講壇に招きました。

ショウギークはおずおずと前に進み出ました。テイは彼女を安心させるため、隣に座りました。牧師はショウギークを例に聖書研究のデモンストレーションをしました。そして、聖書の質問の答えを探すため、聖書を開いてくださいと言いました。ショウギークは生まれて初めて聖書を開きました。牧師は彼女に、聖句の見つけ方と質問の答えを見つける方法を教えました。

家に帰る途中、テイはショウギークに聖書研究はどうだったかを尋ねました。「聖句を探すのが楽しかったわ。今まで感じたことがないくらい心が落ち着いて、とても良い気分よ」とショウギークは答えました。テイはバッグの中から聖書を取り出しました。「これ、プレゼントよ」とテイは言いました。ショウギークはテイに、聖書研究をしてほしいと頼みました。

聖霊が、不可能に思えたことを成し遂げてくださったことをテイはとても喜びました。ショウギークが生まれて初めて自分から本を読もうとしただけでなく、聖書を読もうとしたのです。

現在、テイとショウギークは一緒に聖書を学んでいます。そしてショウギークは5つめの原語を学んでいます。愛という天の永遠の言語です。2人は安息日に一緒に礼拝しています。

テイはバス停で思いがけずショウギークと会えたことを神様に感謝しています。「ショウギークとのバス停での出会いは偶然ではありません。神様の素晴らしい奇跡です」

ショウギークはまだ読書が好きではないようですが、聖書は例外です。「読書は好きではないですが、聖書を読むのは大好きです」と彼女は言っています。

今期の13回献金の一部は、ジョージアに健康センターを作るために使われます。6月29日の献金日を覚えてご準備ください。

〈お話のヒント〉

- ジョージアの場所を地図で示してください。それから2人の女性が安息日に行った教会のある首都のトビリシと、今期の13回献金でセブンスデー・アドベンチストの健康センターが建てられるチャルトゥボを示してください。
- ショウギークとテイについての短い動画を見てください。 bit.ly/Chogik-Tei
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。 bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」を伝えてください。 bit.ly/esd-2024
- グローバル・ミッション・パイオニアについてもっと知りましょう。 bit.ly/GMpioneers
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」(「伝道の目標」No.1)

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- アルメニア出身のアメリカ人医師ヴァグラム・パンパイアン博士は、1904年に妻と兄弟と共にトビリシに到着し、グルジアで最初の公式なセブンスデー・アドベンチスト宣教師となりました。

4. 歌を歌う少年

ベラルーシ



ビクトール

ベラルーシに住むビクトールは脳性麻痺をもって生まれました。お母さんのお腹の中にいたときに、脳が正常に発達しなかったのです。この生まれつきの障害には、理学療法、投薬、手術などの、長期に渡る治療が必要でした。治療には効果が見込めましたが、お医者さんは、完治はしないとしました。

ビクトールはまた、てんかんの発作にも苦しみました。彼は「第一級障害」と診断されました。それはベラルーシで一番重い度合いの障害でした。さらに、彼は母親に見捨てられ、彼の将来はますます厳しいものとなりました。彼は孤児院へと送られました。

ベラルーシ国内の別の場所では、セブンスデー・アドベンチストの母親がある夜、病院で赤ちゃんの泣き声を聞いて、目を覚ましました。泣き声は一度止んだ後、また聞こえてきました。その泣き声に心をぎゅっと捉えられ、彼女は赤ちゃんを探すために起き上がりました。看護師さんが彼女に、ダニールという名前の小さな赤ちゃんを見せてくれました。彼は母親に捨てられた子でした。

その女性は赤ちゃんを憐れに思い、朝になって夫

に電話しました。そして「赤ちゃんがいるから、会いに来て」と言いました。夫は赤ちゃんに会いに来ました。そして二度目の面会の後、彼らはダニールを養子にすることを考え始めました。

その夫婦には既に娘が5人いて、この1歳のダニールが初めての息子になりました。それから間もなく、2人はもう1人養子を迎えようと話し始めました。ダニールには5歳の脳性麻痺のお兄さんがいることがわかったからです。彼らはビクトールを孤児院から引き取って養子にしました。

ビクトールはこの新しい家族から、初めて神様について聞きました。聖書を読むことと、お祈りすることを学びました。そして安息日にはいつも家族と一緒に教会に行きました。大きくなるにつれビクトールは、自分が神様の奇跡であることに気づきました。家族が与えられたこともそうですし、何より生きていること自体が奇跡でした。彼は自分の人生において神様のみ心をあらわしたいと考えるようになりました。

年月が経ち、ビクトールは背が高くなり力も増してきました。しかし、依然として診断は「第一級障害」のままでした。中学校を卒業するとき、彼の進路の選択肢はほとんどありませんでした。お医者さんは彼に2つの選択肢を提示しました。靴の修理を学ぶか、野菜や果物の販売を学ぶかです。彼に下された診断から、重労働やその他の多くの活動に従事することはできないとされたのです。しかし、ビクトールは靴を直したり野菜を売ったりしたくはありませんでした。彼は神の介入を願って祈りました。

しばらくして、神様はまったく予想もしていなかった方法でその祈りに応えてくださいました。お医者さんが突然、ビクトールはもう「第一級障害」ではないと宣言したのです。それどころか、もう障害はない、と言ったのです。彼は背の高い、力強い若者で、てんかんの発作はもうありませんでした。こ

れは奇跡でした！

お父さんはビクトールに、音楽の道に進んではどうかと勧めました。彼は歌うことが大好きで、教会でよく特別讃美歌をしていました。嬉しいことに、音楽学校への入学が認められ、彼はすぐに歌だけではなく作曲、作詞、そしてピアノも習い始めました。そして間もなく、自分の作った曲でコンサートを開くまでになりました。

現在、音楽学校の卒業後にどうするかは決まっています。けれども彼はロシアのザオクスキー・アドベンチスト大学で音楽の学びを続けたいと思っています。どんな道を進むことになっても、彼は心配していません。神様がご計画をお持ちだと確信しているからです。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ 29:11)

「僕に対する神様のご計画は神秘です。でも神様がすべてを最善にしてくださることを僕は知っています」と、彼は言っています。

今期の 13 回献金の一部は、ベラルーシのミンスクに青年のための感化センターを建てるために使われます。

〈お話のヒント〉

- ベラルーシの場所を地図で示してください。それから首都のミンスクを示してください。今期の 13 回献金でこの地に青年たちのための感化センターが建てられます。
- YouTube で、ビクトールの歌う” Kindness (優しさ)” という歌を聞いてください。 bit.ly/Viktor1-ESD
- YouTube で、ビクトールの歌う” How many ways (いくつの道を)” という歌を聞いてください。作詞作曲も彼によるものです。 bit.ly/Viktor2-ESD
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。 bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/esd-2024

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)。

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1901 年、北ロシア教区が組織されました。そこにはベラルーシの領土も含まれており、最初のアドベンチストは、アドベンチストのトラクトやその他の書籍によって導かれました。
- 1930 年代、ベラルーシのアドベンチスト牧師と教会員は有罪判決を受け、極北カシベリアに追放されました。多くの教会員は迫害から逃れるために人里離れた村に移り住み、他の教会員は教会を去りました。

5. 奇跡の学校

ロシア



ルービーム

ルービームにとって、ザオクスキー・キリスト教学校は奇跡の学校でした。ザオクスキー・アドベンチスト大学のキャンパス内にあるザオクスキー・アドベンチスト小学校と中等学校は、3年前に13回献金からの援助を受けました。その資金は新しい校舎を建てるために使われ、そのために小学校と中等学校は、大学の建物に間借りする必要がなくなりました。

しかし、ルービームにとって、この13回献金以上の奇跡がありました。献金が集められるずっと前に、彼と妻のアルヨナは、この学校のあるザオクスキーの町を訪れました。夫婦にはまだ子どもがいませんでしたが、アルヨナの友人たちが子どもをザオクスキー・キリスト教学校に通わせていました。アルヨナは、この学校が子どもたちに良い影響を与えている様子を見て感心しました。

「子どもができれば、ザオクスキーで学ぶことができたら素晴らしいね」と彼女は言いました。ルービームは賛成しました。彼が牧師として働いている

ロシア南部には、セブンスデー・アドベンチストの学校はありませんでした。

彼らの心の中に夢が与えられましたが、その夢は現実的には不可能に思え、彼らはすぐに忘れてしまいました。6年経ったある日、ルービームのところにザオクスキー・キリスト教学校の校長から電話がかかってきました。チャプレンが必要になったので、家族と一緒に引っ越してくることはできますか、という内容でした。

ルービームはすぐに、不可能だと思えた夢を思い出しました。彼とアルヨナには今や、3人の息子がいました。そして、長男が小学校に入るというタイミングでザオクスキーに移ることになったのです。ルービームにとってこれは最初の奇跡でした。息子がアドベンチストの学校に入ることができるようになったのです。

新学年度が始まって2週間後、ルービームは、子どもたちが聖書を学べる放課後グループを作りました。出席は義務ではありませんでしたが、参加した子どもたちは追加の単位をもらうことができました。

最初の聖書研究が行われる木曜日の夕方、210人の全校生徒中6人が出席しました。男子も女子も集まって、教室の中で円を作りました。ルービームはセブンスデー・アドベンチストの教理の1つを教えました。彼が質問をすると、子どもたちは聖書の中から答えを探しました。終わってから、ルービームはその日の学びについての質問シートを作って、家で課題をしてこられるようにしました。

聖書研究グループは、生徒たちがそのうわさを聞くにしたがって、大きくなっていきました。参加者の中には電子タバコが止められない10代の男子生徒がいました。教師たちは彼に、止めないと除籍処分になると警告していました。彼は自ら進んで聖書研究グループに参加したのですが、勉強するうちに、タバコを止めることができました。そして、グルー

プの中でも最もアクティブで誠実な生徒の1人になりました。

学期の終わりに、グループの5人の生徒たちがイエス様に心をささげました。ルービームは4人の女子と1人の男子がバプテスマを受けるのを喜びのうちに見つめました。彼にとってそれは、ザオクスキー・キリスト教学校で起こった2つめの奇跡でした。

次の学期には7人の生徒が加わり、聖書研究のグループはさらに大きくなりました。現在、13歳から16歳までの8人の生徒が、バプテスマの準備をしています。ルービームにとってこれはこの学校での最も新しい奇跡で、言葉にならないほど嬉しい出来事です。「神様が私を彼の手の生ける道具としてザオクスキーに遣わしてくださったことが、とても嬉しいです」と彼は話しています。

皆さまからの3年前の13回献金に感謝します。そのおかげで、ロシアのザオクスキーに、ザオクスキー・キリスト教学校を建てることができました。今期の献金の一部は、ロシア極北のサレハルトに霊的地域交流センターを作るのに使われます。6月29日の献金日を覚えてください。

〈お話のヒント〉

- ロシアの場所を地図で示してください。それから、モスクワから南に130キロのザオクスキーを示してください。ここに、3年前の13回献金で新校舎を建てたザオクスキー・キリスト教学校があります。続いて、今期の13回献金を受け取るロシア極北のサレハルトも示してください。
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。 bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」を伝えてください。 bit.ly/esd-2024
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- ロシア教区は、1890年に設立されたロシアで最初のアドベンチストの組織です。
- 現在、ロシアには451の教会、331の機関、31,517人の教会員がいます。人口1億2,051万人のうち、3,824人に1人がアドベンチストです。

6. 声に従って引っ越した夫婦

ロシア



リリヤ

リリヤは神様を信じていませんでした。信仰について考えたこともありませんでした。彼女が育ったのは、神様や信仰について考える人など1人もいないような国、ソビエト連邦でした。

ですから、語りかける声が突然聞こえてきたときにはびっくりしました。彼女はその時23歳で、ウズベキスタンの首都タシケントの自宅に1人でいました。夫のユーリは外出中でした。

彼女は家族の問題で1日中悩んでいました。そんな時に突然、引っ越したらよい、という考えが彼女の頭に浮かんだのです。

「そうね、引っ越したらいいんだわ！」彼女は声に出して言いました。その瞬間、彼女は肩に優しく手を置かれるのを感じ、優しい声が「その通りです！」と言うのを聞きました。リリヤは周りを見回しましたが誰もいません。その声はとても優しくだったので怖くはありませんでした。彼女はその声を、自分とユーリが引っ越すことに、背中を押してくれているものとしてとらえました。

ユーリが帰宅すると、リリヤは彼に引っ越そうと話しました。そして夫婦は結局、遠く離れたソビエトの極北、北極圏のすぐそばに引っ越しました。そのような辺ぴな場所では、働くことと近所の人たちとおしゃべりする以外、やることがほとんどありません。リリヤとユーリは、仕事をし、近所の人たちとおしゃべりをして、やがてリューバとバレンティンという夫婦と親しくなりました。

年月が経ち、彼らの友情は深まっていきました。やがてソ連が崩壊し、リューバとバレンティンは引っ越していきました。けれども連絡は取り続けていました。リューバは聖書に興味を持ち、学んだことをリリヤに伝え始めました。

リューバがまず思ったのは、神様の真の安息日は何曜日なのかということでした。そして司祭のところに聞きに行きましたが、彼は、日曜日が真の安息日だという証拠を聖書から示すことができませんでした。そこで彼女は必死に神に祈りました。「もしあなたが本当にいらっしゃるなら、どうか私にあらわしてください。あなたのことを知りたいのです」

少し経ったときのこと、彼女は「聖書研究をしませんか」という手作りの看板をバス停で見つけました。看板に書いてあった場所に行くと、セブンスデー・アドベンチストのグループと出会いました。神様の真の安息日はいつかという彼女の質問に対して聖書から答えが得られ、彼女はバプテスマを受けました。

リューバは興奮して、リリヤに自分の新しい信仰について伝えました。リリヤはリューバが教えてくれた聖書の真実をすぐに受け入れました。けれども自分自身の信仰はありませんでした。神様を知りませんでしたし、神様に従うとか安息日を守るといったことに理由を見出せませんでした。

それから、リリヤと彼女の夫は失業し、苦しい生活が始まりました。彼女は、優しい声に従ってウズ

ベキスタンを出てきたのは間違いではなかったかと考え始めました。ある日、彼女は道で出会った人に愚痴をこぼしました。翌日、ナディアという名前のその人が彼女の家に来て、家で採れたジャガイモと人参をくれました。リリヤは驚いて、お礼に、乏しい財布から食料品を買ってナディアの家に行ってきました。

深い友情が生まれました。リリヤは、ナディアが自分よりも苦しい生活をしていることを知って驚きました。ナディアの夫は、まだ世話が必要な10人の子どもを遺して1か月前に亡くなっていたのです。しかし、彼女の心は平安と喜びで満ちていました。ナディアはセブンスデー・アドベンチストでした。

これで、リリヤにはセブンスデー・アドベンチストの友人が2人できました。リューバとナディアです。ナディアが聖書をくれたので、リリヤは読み始めました。一方リューバも彼女に聖書を送ってきてくれました。これで聖書が2冊になりました。聖書のお話はとても面白かったのですが、自分の信仰を持つには至りませんでした。神様のことはわかりませんでした。

その後、リューバがリリヤをわざわざ訪ねてきて、町に新しくできたアドベンチストの教会に連れて行ってくれました。リリヤはそこに毎週安息日に通うようになりました。

それからかなりの年月が流れました。リリヤは、安息日の礼拝や交わりを楽しんでいましたが、自分の信仰を持つには至りませんでした。神様のことはわかりませんでした。

そんなある日、悲劇が起こりました。リリヤの娘が、出産直前に流産し、2人目の子どもも妊娠中に亡くなってしまったのです。その後、彼女はまた妊娠しましたが、合併症を起こしかけていました。リリヤは黙っていられなくなり大声で呼ばわりました。「神様、この赤ちゃんを助けてください！ 死なせないでください！」そしてこう誓いました。「もしこの子を助けてくださったら、あなたを受け入れてバプテスマを受けます」

数か月後、元気な男の子が生まれ、ステパンと名付けられました。リリヤは約束を守って6か月後にバプテスマを受けました。

現在、リリヤは自分の信仰をもっています。そして神様を知っています。彼女は、天からの優しい声がウズベキスタンから引っ越すように促してくれたと信じています。引っ越したからこそ、リューバとナディアというアドベンチストの友人ができました。引っ越したからこそ、2冊の聖書を手に取って読むことができました。引っ越したからこそ、自分の信仰と神様を見出すことができました。ウズベキスタンで優しい声を聞いたときからロシア極北でバプテスマを受けるまで、26年が経っていました。

現在、リリヤは69歳で、リューバと名付けた娘と10歳の孫息子ステパンと一緒に毎週教会に通っています。そして、夫やその他の親戚もいつか信仰を持って神様を信じるようにとお祈りしています。彼女は、いつかそうなる信じています。彼女は神様を知っていて、神様は祈りを聞いてくださることを知っているからです。

今期の13回献金の一部は、リリヤの住むロシア極北のサレハルトに霊的地域交流センターを作るのに使われます。また、ユーロ・アジア支部のその他の4つのプロジェクトのためにも使われます。アルメニアのエレバンに家族で神様について学ぶことのできる感化センターを、ベラルーシのミンスクに若者のための感化センターを、ジョージアのチャルトゥボに健康センターを、ウズベキスタンのタシケントに最初のアドベンチストの小学校を建てる計画があります。ユーロ・アジア支部に福音を伝えるための、皆さんの温かい献金に感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・サレハルトの場所を地図で示してください。
- ・サレハルトは北極圏にある世界で唯一の町です。1595年に設立され、現在の人口は約5万人です。
- ・今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- ・ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」を伝えてください。bit.ly/esd-2024
- ・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

〈13 回献金の前に〉

- 伝道のための献金は、世界中に神様の言葉を広めるための贈り物であるということ、また、13 回献金の 4 分の 1 はユーロ・アジア支部の 5 つの伝道計画のために使われることを伝えましょう。伝道計画については『聖書研究ガイド』の裏表紙をご覧ください。
- お話を読む人は、暗記する必要はありませんが、ある程度は読み込んでおきましょう。誰かにお話を演じてもらうのも楽しいでしょう。
- お話の前か後に、地図で、今回の 13 回献金を受け取るユーロ・アジア支部の国々 (アルメニア、ベラルーシ、ジョージア、ロシア、ウズベキスタン) の場所を示すと良いでしょう。 bit.ly/fb-mq から、地図をダウンロードできます。

豆知識

- ロシアは地球上の国土の 10 分の 1 以上を占める世界最大の国です。11 の時間帯があり、2 つの大陸 (アジアとヨーロッパ) にまたがり、3 つの海 (北極海、大西洋、太平洋) に面しています。
- ロシアで最も有名な動物はシベリアトラで、世界最大のネコ科の動物です。体長 10 フィート (3 メートル) 以上、体重 660 ポンド (300 キロ) にもなります。
- 世界的に知られる伝統的なロシア料理はボルシチです。ボルシチは、ビーツ、キャベツ、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ、サワークリームといったロシア料理によく使われる食材で作るスープです。
- 有名なロシア人には、モダニズム画家のマルク・シャガール、劇作家のアントン・チェーホフ、バレエダンサーのミハイル・バリシニコフ、作曲家のピョートル・チャイコフスキー、チェス棋士のガルリ・カスパロフ、政治家のミハイル・ゴルバチョフなどがいます。